



Marubeni  
Itochu  
Sumisho  
Techno Steel Inc.

# FABB-DECK

ファブデッキ

建物の性能と作業効率の向上を実現したシステム床版

一方向床版

日本建築センター 一般評定番号 (BCJ 評定) RC0279-06 (2018年3月14日)

二方向床版

日本建築センター 一般評定番号 (BCJ 評定) RC0280-06 (2018年3月14日)

伊藤忠丸紅住商テクノスチール株式会社



# FABB-DECK

建物の性能と作業効率の向上を実現したシステム床版

ファブデッキ床版は、科学技術振興事業団（新技術開発事業団）の委託を受けて、1983年に伊藤忠が開発した、建築物の性能と施工のニーズにお応えするシステム技術です。

ファブデッキ工法（Form And Bar Block Fabricated Building Deck）とは、床用の鉄筋と捨型枠を一体化したファブデッキ床版（捨型枠付版状立体溶接鉄筋）を現場で敷き込むことにより、型枠工と鉄筋工が同時にでき、作業や管理が簡略化できる画期的な床版です。

さらに、地震力をしっかり受け止める“剛床”となるため、より安全性が向上し、木製型枠を使用しない、環境に優しいオリジナル商品です。



# ファブデッキの特長

## 1 工期の短縮

- 型枠工事と鉄筋工事が同時に施工できます。
- サポートは原則不要。複数階の同時施工、上階の先行施工や、他工種の同時施工ができ、コンクリート打設後の型枠解体はありません。
- 現場での工数が少なく単純作業で済み、短期間で仕上がります。(5人1組で1日200~300㎡)

## 2 高い施工精度

- 縦筋、横筋の各交点で溶接されており、配筋精度が極めて高く、コンクリート打設まで乱れることはありません。設計通りのスラブ性能が確保できます。
- ひび割れ低減、振動、遮音等にも優れた効果を発揮します。

## 3 工事管理の合理化

- 省力、プレハブ化、工事量の軽減、施工偏差の解消等工事が合理化され、品質・安全管理が簡略化されます。
- 作業性が良く安全です。ファブ鉄筋は格子状に極めて堅固に溶接組立されており、作業床、安全床として利用できます。

## 4 総合的なコストダウン

- 工期の短縮、全体工事量の軽減、現場経費の軽減等により工事費の低減が図れます。
- 原則サポート無しで仮設費が軽減されます。

## 5 広い用途

- S造・SRC造・RC造・PCa/PC造の厚さ120mm以上の一般構造床に使用できます。
- ユニット工法、SRC造の先行敷込み等にも適しています。
- 既設計案件もファブデッキに転換できます。

## 6 高品質な工業化製品

- 自動製造装置により安定した高品質の製品が製造されています。
- 検査装置により品質管理がされています。

## 製品仕様

### 用途 / 適用範囲 / 製品・設計タイプ / 製品使用材料

#### 用途

- S 造 ● RC 造 ● SRC 造 ● PCa・PC 造等の現場打ちコンクリートスラブ  
(工場、倉庫、病院、学校、研究施設等)

#### 適用範囲

- スラブ厚さ = 120 mm ~ 270 mm (トラス高さ : 80mm ~ 200mm)
- コンクリート下かぶり厚さ = 20mm、25mm、30mm 対象 〈注①〉
- コンクリート = 普通コンクリート、軽量一種コンクリート :  $F_c \geq 18N / mm^2$  (180Kgf /  $cm^2$ )

〈注①〉 トラス高さ等の仕様により対応が出来ない場合があります。

#### 製品・設計タイプ

タイプ	配筋		縦筋(主筋)		横筋(配力筋)	
			上端	下端	上端	下端
<b>P 型</b> (従来型) <small>※P型タイプのトラス高さH=80.95 については縦筋D13@150の仕 様はございません。</small>	80 95 110	二方向	D13 @ 150	D13 @ 150	D10 @ 200	D10 @ 200
			D10 @ 150	D10 @ 150	D10 @ 200	D10 @ 200
	125 140 155	一方向	D13 @ 150	D13 @ 150	D10 @ 200	————
			D10 @ 150	D10 @ 150	D10 @ 200	————
<b>N 型</b> (新型) <small>※N型タイプの横筋D13@200は標 準品はございません。ご採用頂く 場合はご相談下さい。</small>	90 100 110	二方向	D13 @ 200	D13 @ 200	D10 @ 200	D10 @ 200
			D13 @ 200	D10 @ 200	D10 @ 200	D10 @ 200
			D10 @ 200	D10 @ 200	D10 @ 200	D10 @ 200
	120 130 140 150 160 170 180 190 200	一方向	D13 @ 200	D13 @ 200	D13 @ 200	————
			D13 @ 200	D13 @ 200	D10 @ 200	————
			D13 @ 200	D10 @ 200	D13 @ 200	————
			D13 @ 200	D10 @ 200	D10 @ 200	————
			D13 @ 200	D10 @ 200	D10 @ 200	————
			D10 @ 200	D10 @ 200	D10 @ 200	————
			D10 @ 200	D10 @ 200	D10 @ 200	————

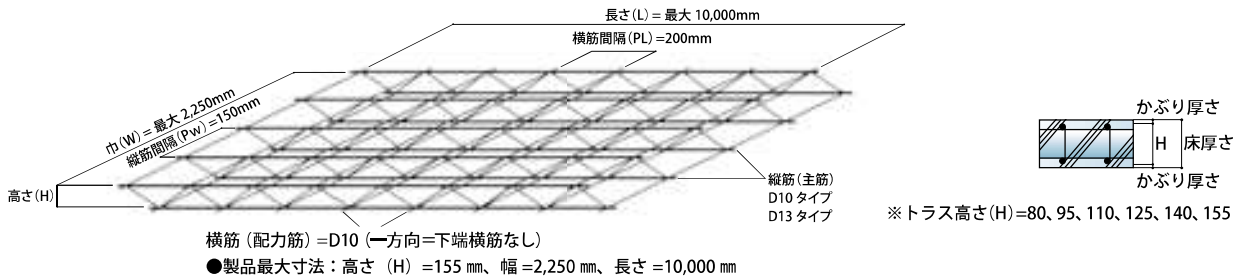
#### 製品使用材料

部位名	使用材料
鉄筋構成	縦筋 (上端下端共) 横筋 (上端下端共) ウェブ筋 (仮設材) JIS G 3112 SD295A 径 D10、D13 JIS G 3112 SD295A 径 D10 (D13) JIS G 3532 の鉄線 SWM-B 径 5 mm、径 6 mm、径 7 mm
型枠構成	鋼板捨型枠 (仮設材) スペース (仮設材) 支 承 材 (仮設材) JIS G 3302 SGCC 溶解亜鉛メッキ鋼板 (0.37 mm ~ 0.6 mm) 標準品は厚さ 0.4 mm Z12 とする JIS G 3532 の鉄線 SWM-B 径 4 mm 厚さ 4.0 ~ 4.5 mm の平鋼
鉄筋副資材	継手筋 補足筋 開口補強筋 JIS G 3112 SD295A 径 D10、D13 JIS G 3112 SD295A 径 D10、D13 JIS G 3112 SD295A 径 D10、D13
溶接点強度	トラス接点 (縦筋・ウェブ筋交点) 縦横筋交点 スペース支持点 電気抵抗溶接 (1種・スポット) 剪断強さ $\geq 100N / mm^2$ (ウェブ筋断面積に対し) " (1種・スポット) 剪断強さ $\geq 100N / mm^2$ (横筋断面積に対し) " (1種・スポット) 引張強さ $\geq 500N / 本$

※仮設材については同等以上の耐久力を有するものを使用する場合があります。

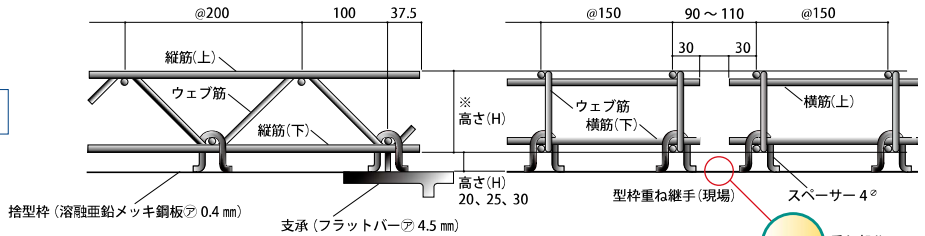
# P型（縦筋 @ 150）／二方向、一方向タイプ

## 名称及び寸法

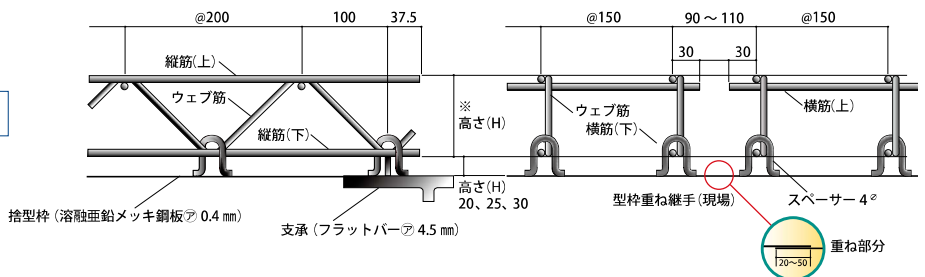


※トラス高さ(H)=80、95、110、125、140、155

### 二方向タイプ



### 一方向タイプ(下端横筋なし)



## 製品規格

### 二方向

高さ(H)	ファブデックタイプ		ウェブ筋	断面2次モーメント Ix(cm <sup>4</sup> /m幅)	施工時最大許容曲げモーメント (KNcm/m幅)	施工時最大許容せん断力 (KN/m幅)
	縦筋 @150	横筋 @200				
80	D10	D10	5φ	99	572.2	8.3
			6φ	103	572.2	9.7
95	D10	D10	5φ	140	696.6	8.6
			6φ	144	696.6	10.6
110	D10	D10	6φ	204	821.0	15.0
			D13	D10	7φ	310
125	D10	D10	6φ	245	945.3	15.1
			D13	D10	7φ	390
140	D10	D10	7φ	305	1,069.7	19.0
			D13	D10	7φ	434
155	D10	D10	7φ	352	1,194.1	20.4
			D13	D10	7φ	491

※表の数値は実験値より算定しております。

### 一方向

高さ(H)	ファブデックタイプ		ウェブ筋	断面2次モーメント Ix(cm <sup>4</sup> /m幅)	施工時最大許容曲げモーメント (KNcm/m幅)	施工時最大許容せん断力 (KN/m幅)
	縦筋 @150	横筋 @200				
80	D10	D10	5φ	95	572.2	8.3
			6φ	99	572.2	8.7
95	D10	D10	5φ	137	679.9	8.6
			6φ	136	696.6	10.4
110	D10	D10	6φ	198	821.0	14.6
			D13	D10	7φ	301
125	D10	D10	6φ	235	945.3	15.1
			D13	D10	7φ	379
140	D10	D10	7φ	296	1,069.7	18.6
			D13	D10	7φ	421
155	D10	D10	7φ	339	1,194.1	19.7
			D13	D10	7φ	477

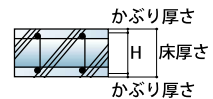
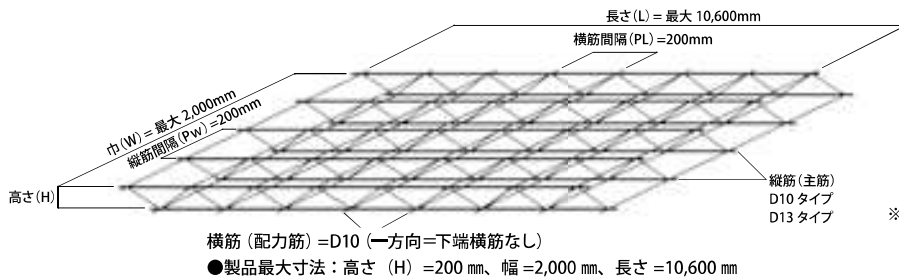
## 性能

### 配筋断面積表 (1m 幅あたり)

鉄筋径 (mm)	一本あたり断面積 (cm <sup>2</sup> )	配筋間隔 (mm)	
		縦筋径@150	横筋径@200
D10	0.71	4.76	3.57
D13	1.27	8.45	

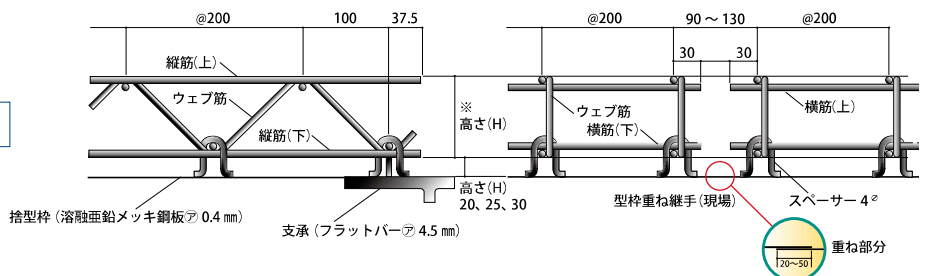
### N型 (縦筋 @ 200) / 二方向、一方向タイプ

#### 名称及び寸法

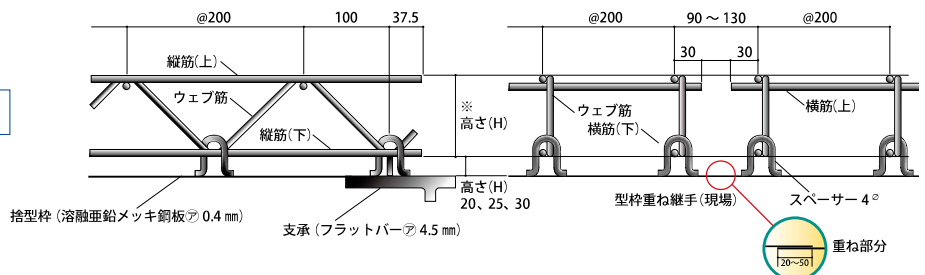


※トラス高さ(H) = 90、100、110、120、130、140、150、160、170、180、190、200

#### 二方向タイプ



#### 一方向タイプ(下端横筋なし)



#### 性能

##### 配筋断面積表 (1m幅あたり)

鉄筋径 (mm)	一本あたり断面積 (cm <sup>2</sup> )	配筋間隔 (mm)	
		縦筋径@200	横筋径@200
D10	0.71	3.57	3.57
D13	1.27	6.34	6.34

※N型タイプは製造拠点が限定されますので、ご採用頂く場合はご相談下さい。



## 製品規格

### 二方向

高さ (H)	ファブデッキタイプ			ウェブ筋	断面2次 モーメント Ix(cm <sup>4</sup> /m幅)	施工時最大 許容曲げ モーメント (KNcm/m幅)	施工時最大 許容せん 断力 (KN/m幅)
	縦筋 @200 上/下	横筋 @200 上/下	ウェブ筋				
90	D10 / D10	D10	6φ	80	480.2	8.0	
				7φ	88	480.2	10.4
	D13 / D10	D10	6φ	102	713.5	10.2	
				7φ	108	717.8	10.3
	D13 / D13	D10	6φ	133	1,022.5	11.1	
				7φ	141	1,022.5	16.8
100	D10 / D10	D10	6φ	100	541.0	8.5	
				7φ	112	541.0	10.1
	D13 / D10	D10	6φ	126	881.8	11.5	
				7φ	136	917.1	13.1
	D13 / D13	D10	6φ	174	942.6	11.4	
				7φ	178	1,157.0	17.6
110	D10 / D10	D10	6φ	121	601.8	9.2	
				7φ	132	601.8	10.8
	D13 / D10	D10	6φ	146	856.4	11.6	
				7φ	156	995.0	14.2
	D13 / D13	D10	6φ	203	917.9	11.6	
				7φ	210	1,291.6	18.0
120	D10 / D10	D10	6φ	142	662.6	10.0	
				7φ	152	662.6	11.5
	D13 / D10	D10	6φ	174	929.0	11.5	
				7φ	177	1,073.0	15.3
	D13 / D13	D10	6φ	232	893.2	11.5	
				7φ	242	1,073.0	18.2
130	D10 / D10	D10	6φ	155	691.1	10.1	
				7φ	174	723.4	12.1
	D13 / D10	D10	6φ	200	910.7	11.2	
				7φ	213	970.8	13.8
	D13 / D13	D10	6φ	254	856.2	11.3	
				7φ	272	1,297.9	18.2
140	D10 / D10	D10	6φ	168	719.6	10.3	
				7φ	197	784.2	12.7
	D13 / D10	D10	6φ	233	892.3	10.8	
				7φ	249	987.9	14.1
	D13 / D13	D10	6φ	277	819.2	10.9	
				7φ	303	1,320.8	17.9
150	D10 / D10	D10	7φ	209	845.0	13.1	
	D13 / D10	D10		269	1,078.8	15.4	
	D13 / D13	D10		332	1,267.0	17.5	
160	D10 / D10	D10	7φ	229	944.8	13.5	
	D13 / D10	D10		289	1,169.6	16.7	
	D13 / D13	D10		362	1,213.2	16.9	
170	D10 / D10	D10	7φ	229	966.6	14.0	
	D13 / D10	D10		285	1,264.4	16.1	
	D13 / D13	D10		367	1,171.2	16.2	
180	D10 / D10	D10	7φ	239	899.0	12.9	
	D13 / D10	D10		307	1,164.2	15.3	
	D13 / D13	D10		396	1,127.6	15.4	
190	D10 / D10	D10	7φ	243	874.7	12.5	
	D13 / D10	D10		317	1,140.7	14.4	
	D13 / D13	D10		409	1,090.0	14.5	
200	D10 / D10	D10	7φ	247	850.3	12.2	
	D13 / D10	D10		328	1,117.2	13.4	
	D13 / D13	D10		422	1,052.4	13.6	

※表の数値は実験値より算定しております。

### 一方向

高さ (H)	ファブデッキタイプ			ウェブ筋	断面2次 モーメント Ix(cm <sup>4</sup> /m幅)	施工時最大 許容曲げ モーメント (KNcm/m幅)	施工時最大 許容せん 断力 (KN/m幅)
	縦筋 @200 上/下	横筋 @200 上	ウェブ筋				
90	D10 / D10	D10	6φ	77	480.2	7.7	
				7φ	87	480.2	9.8
	D13 / D10	D10	6φ	100	687.4	9.8	
				7φ	109	704.8	10.1
	D13 / D13	D10	6φ	123	1,022.5	11.1	
				7φ	142	1,022.5	15.9
100	D10 / D10	D10	6φ	101	541.0	8.6	
				7φ	110	541.0	9.6
	D13 / D10	D10	6φ	115	802.6	11.4	
				7φ	135	899.0	12.9
	D13 / D13	D10	6φ	165	875.0	11.4	
				7φ	171	1,157.0	17.6
110	D10 / D10	D10	6φ	110	579.9	8.7	
				7φ	122	601.8	9.8
	D13 / D10	D10	6φ	139	763.2	10.9	
				7φ	154	970.2	13.9
	D13 / D13	D10	6φ	187	835.4	11.6	
				7φ	194	1,236.6	18.0
120	D10 / D10	D10	6φ	119	618.8	8.8	
				7φ	134	662.6	10.0
	D13 / D10	D10	6φ	163	813.0	11.5	
				7φ	173	1,041.5	14.9
	D13 / D13	D10	6φ	209	795.8	11.4	
				7φ	218	1,316.3	18.2
130	D10 / D10	D10	6φ	128	633.7	9.0	
				7φ	148	705.0	10.4
	D13 / D10	D10	6φ	191	771.8	11.0	
				7φ	201	1,010.0	14.4
	D13 / D13	D10	6φ	233	780.9	11.2	
				7φ	252	1,219.5	17.4
140	D10 / D10	D10	6φ	137	648.6	9.3	
				7φ	162	747.5	10.7
	D13 / D10	D10	6φ	220	730.6	10.4	
				7φ	230	1,094.2	15.6
	D13 / D13	D10	6φ	257	766.1	10.9	
				7φ	286	1,269.0	17.9
150	D10 / D10	D10	7φ	185	801.3	11.5	
	D13 / D10	D10		248	1,134.6	16.2	
	D13 / D13	D10		314	1,198.9	17.2	
160	D10 / D10	D10	7φ	208	855.2	12.2	
	D13 / D10	D10		266	1,175.0	16.8	
	D13 / D13	D10		343	1,128.9	16.2	
170	D10 / D10	D10	7φ	228	931.6	13.3	
	D13 / D10	D10		270	1,125.4	16.1	
	D13 / D13	D10		372	1,122.1	16.0	
180	D10 / D10	D10	7φ	227	793.2	11.4	
	D13 / D10	D10		295	1,114.4	15.3	
	D13 / D13	D10		388	1,116.7	15.4	
190	D10 / D10	D10	7φ	227	784.9	11.2	
	D13 / D10	D10		317	1,076.2	14.4	
	D13 / D13	D10		395	1,064.5	14.5	
200	D10 / D10	D10	7φ	228	776.6	11.1	
	D13 / D10	D10		339	1,037.9	13.4	
	D13 / D13	D10		403	1,012.2	13.6	

## 設計 [計算例 / P型 (縦筋@150二方向タイプ)]

1

スラブ符号・設計条件  
(辺長、追加荷重)の入力

2

スラブ厚さの算定

3

スラブ支持条件の指定  
仮設用法の指定

基本スラブ=四辺固定  
変化スラブ=三辺固定、二辺固定  
四辺支持、一方向スラブ  
持出しスラブ

単純梁用法、連続梁用法  
中間仮設支持用法  
配筋要領の選定

### スラブの仮定

スラブ符号 : S1

スラブ端部の状態 : 四辺固定 (基準値)

辺長さ : Lx=4.5m Ly=9.0m

$$\lambda = \frac{L_y}{L_x} = \frac{9.0}{4.5} = 2.0 \quad \lambda c = 2.0$$

追加荷重 (WP): 仕上自重 = 1000N/m<sup>2</sup>  
積載荷重 = 5000N/m<sup>2</sup> } 計 WP = 6000N/m<sup>2</sup> 等分布荷重

スラブ厚さの算定:

$$t = 0.02 \times \left( \frac{\lambda - 0.7}{\lambda - 0.6} \right) \times \left( 1 + \frac{WP}{10} + \frac{Lx}{10000} \right) \times Lx$$

$$t = 0.02 \times \left( \frac{2.0 - 0.7}{2.0 - 0.6} \right) \times \left( 1 + \frac{6.0}{10} + \frac{4500}{10000} \right) \times 4500 = 171.3 \text{ mm}$$

$$t > Lx / 30 = 4500 / 30 = 150 \text{ mm} \quad t (180 \text{ mm}) > 150 \text{ mm}$$

4

荷重の計算

5

施工時荷重、先行荷重、追加荷重の計算

施工時積載重量 = 作業時荷重

固定荷重 (DL) =  $\left\{ \begin{array}{l} \text{鉄筋コンクリート自重} \\ \text{型枠自重} \\ \text{仕上材自重} \end{array} \right\}$  先行荷重 (WL) } 施工時荷重 (WC)

積載荷重 (LL) } 追加荷重 (WP) } 長期荷重 (TL)

### 荷重の計算

計算条件: 鉄筋コンクリート重量 普通コンクリート = 24.0kN/m<sup>3</sup>  
: ファブデッキ工法のコンクリート重量変動値 = 200N/m<sup>2</sup>  
: 標準型枠重量 = 40.0N/m<sup>2</sup>

仮定荷重: 追加荷重 (WP) = 6000N/m<sup>2</sup>  
: 先行荷重 (WL) = コンクリート + 変動値 + 型枠 = 18.0 × 240 + 200 + 40.0 = 4560N/m<sup>2</sup>  
: 長期荷重 (TL) = WP + WL = 6000 + 4560 = 10560N/m<sup>2</sup>  
: 作業荷重 = 1500N/m<sup>2</sup>  
: 施工時荷重の追加 = 0.0N/m<sup>2</sup>  
: 施工時荷重 (WC) = 作業荷重 + 施工時荷重の追加 + WL = 1500 + 0.0 + 4560 = 6060N/m<sup>2</sup>

6

ファブ鉄筋の仮定

### ファブ鉄筋の仮定

仮設用法: 連続梁用法

仮設スパン: L1 = 4.3m

トラスの高さ: 上端かぶり厚さ (t1) = 20mm、下端かぶり厚さ (t2) = 20mm

$$H \leq t - (t1 + t2) = 180 - (20 + 20) = 140 \text{ mm}, H \text{ の標準} = 140 \text{ mm}$$

トラス筋断面の仮定: (残留たわみ量により仮定する) 縦筋径 = D13  
許容応力: ファブデッキ工法設計基準「fm、fQ、Ix」による  
E = 2.06 × 10<sup>5</sup> N/mm<sup>2</sup> による。

7

施工時の安全性の検討

### 施工時荷重に対する安全性の検討

縦筋径 = D13

$$\delta T \text{ 基準値} = \frac{L1}{180} \text{ 又は } 20 \text{ mm のうち小さい値}$$

$$MT = \frac{WC \times L1^2}{8} = \frac{6.06 \times 4.3^2}{8} = 14.01 \text{ kN} \cdot \text{m} \leq 15.28 \text{ kN} \cdot \text{m} \text{ OK}$$

$$QT = 0.625 \times WC \times L1 = 0.625 \times 6.06 \times 4.3 = 16.29 \text{ kN} \leq 21.8 \text{ kN} \text{ OK}$$

$$\delta T = \frac{WC \times L1^4}{185 \times E \times Ix \times 100} = \frac{6.06 \times 4.3^4}{185 \times 2.06 \times 10^5 \times 434} \times 10^8 = 12.5 \text{ mm} \leq 20 \text{ mm} \text{ OK}$$



# 8

## 鉄筋断面積の算定

基本式・ $M=at \cdot ft \cdot j$   $ft=196N/mm^2$   
 先行荷重に対応する鉄筋断面積  
 $(at \text{ 先}) = M \text{ 先} / ft \cdot h$   
 追加荷重に対応する鉄筋断面積  
 $(at) = M \text{ 追} / ft \cdot j$   
 長期荷重に対応する鉄筋断面積  
 $(at) = at \text{ 先} + at \text{ 追}$

中間仮設支持部に対応する鉄筋断面積  
 $(at) = MX2 / (ft-ft') \cdot j2$   
 補足筋断面積  $at-at1$  (仮定した鉄筋断面積)  
 $ft'$  = 先行応力度  $h$  = トラス有効高さ  
 $M \text{ 先}$  = 先行荷重による曲げモーメント  
 $M \text{ 追}$  = 追加荷重による曲げモーメント

### 長期荷重に対する応力、部材の算定

**短辺方向の負担荷重** ※一方向スラブは短辺方向で全荷重を負担します。

$$WP_x = \frac{Ly^4}{Lx^4+Ly^4} \times WP = \frac{9.0^4}{4.5^4+9.0^4} \times 6000 = 5647N/m^2$$

#### 縦筋計算

X 方向端部 [X1a]

$$M_x = \frac{WP_x \times Lx^2}{12} = \frac{5.647 \times 4.5^2}{12} = 9.53kN \cdot m \quad j1=134.3mm$$

$$at = \frac{M_x}{ft \times j1} = \frac{9.53}{196 \times 134.3} \times 10^4 = 3.62 \text{ cm}^2 \leq D13@150 \quad 8.45 \text{ cm}^2 \text{ OK}$$

X 方向端部 [X1b]

$$M_x \text{ 先} = \frac{WL \times L1^2}{8} = \frac{4.56 \times 4.3^2}{8} = 10.54kN \cdot m \quad h=127mm$$

$$at \text{ 先} = \frac{M_x \text{ 先}}{ft \times h} = \frac{10.54 \times 10^4}{196 \times 127} = 4.23 \text{ cm}^2$$

$$M_x \text{ 追} = \frac{WP_x \times Lx^2}{12} = \frac{5.647 \times 4.5^2}{12} = 9.53kN \cdot m \quad j1=134.3mm$$

$$at \text{ 追} = \frac{M_x \text{ 追}}{ft \times j1} = \frac{9.53}{196 \times 134.3} \times 10^4 = 3.62 \text{ cm}^2$$

$$at = at \text{ 先} + at \text{ 追} = 4.23 + 3.62 = 7.85 \text{ cm}^2 \leq D13@150 \quad 8.45 \text{ cm}^2 \text{ OK}$$

X 方向中央部 [X2]

$$M_x \text{ 先} = \frac{9 \times WL \times L1^2}{128} = \frac{9 \times 4.560 \times 4.3^2}{128} = 5.93kN \cdot m \quad h=127.0mm$$

$$at \text{ 先} = \frac{M_x \text{ 先}}{ft \times h} = \frac{5.93}{196 \times 127} \times 10^4 = 2.38 \text{ cm}^2$$

$$M_x \text{ 追} = \frac{WP_x \times Lx^2}{18} = \frac{5.647 \times 4.5^2}{18} = 6.35kN \cdot m \quad j2=134.3mm$$

$$at \text{ 追} = \frac{M_x \text{ 追}}{ft \times j2} = \frac{6.35}{196 \times 134.3} \times 10^4 = 2.41 \text{ cm}^2$$

$$at = at \text{ 先} + at \text{ 追} = 2.38 + 2.41 = 4.79 \text{ cm}^2 \leq D13@150 \quad 8.45 \text{ cm}^2 \text{ OK}$$

#### 横筋計算

Y 方向端部

$$M_y = \frac{WP \times Lx^2}{24} = \frac{6.0 \times 4.5^2}{24} = 5.06kN \cdot m \quad j3=124.3mm$$

[Y1a]

$$at = \frac{M_y}{ft \times j3} = \frac{5.06}{196 \times 124.3} \times 10^4 = 2.08 \text{ cm}^2 \leq D10@200 \quad 3.57 \text{ cm}^2 \text{ OK}$$

[Y1b]

$$at = \frac{M_y}{ft \times j3} = \frac{5.06}{196 \times 124.3} \times 10^4 = 2.08 \text{ cm}^2 < D10@200 \quad 3.57 \text{ cm}^2 \text{ OK}$$

Y 方向中央部 [Y2]

$$M_y = \frac{WP \times Lx^2}{36} = \frac{6.0 \times 4.5^2}{36} = 3.38kN \cdot m \quad j4=124.3mm$$

$$at = \frac{M_y}{ft \times j4} = \frac{3.38}{196 \times 124.3} \times 10^4 = 1.39 \text{ cm}^2 \leq D10@200 \quad 3.57 \text{ cm}^2 \text{ OK}$$

#### 残留たわみ量の算定

15mm 又は  $L1/250$  のうち小さい値

$$\delta \text{ 残基準値} = \frac{L1}{250} = \frac{4300}{250} = 17.2mm > 15mm$$

$$\delta \text{ 残} = \frac{WL \times L1^4}{185 \times E \times I} = \frac{4.56 \times 4.3^4}{185 \times 2.06 \times 10^5 \times 434} \times 10^8 = 9.4mm \leq 15mm \text{ OK}$$

# 9

## 配筋リストの出力

### 【配筋リスト】

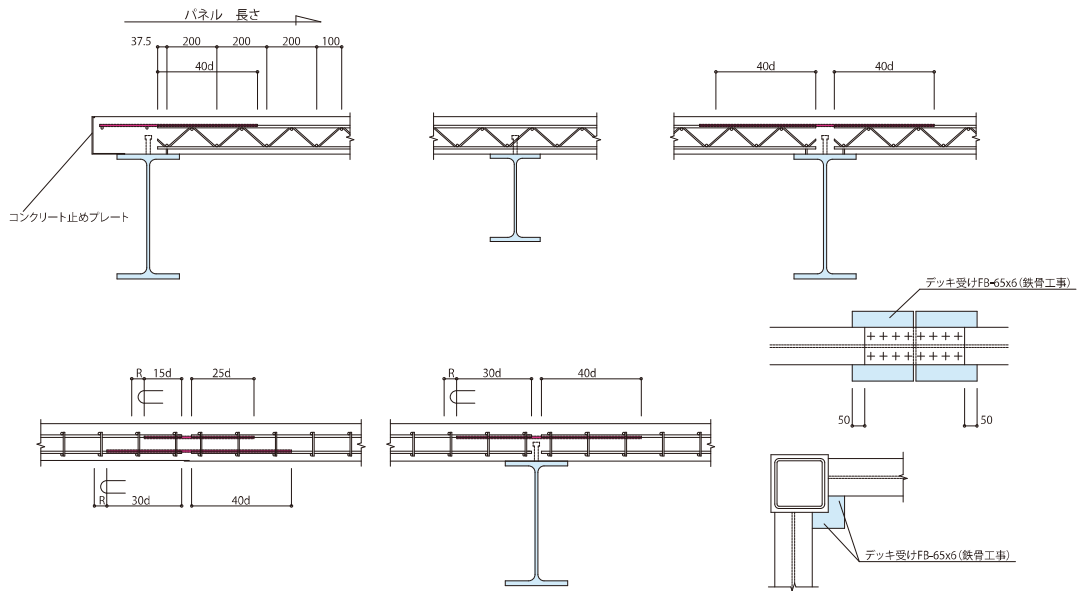
符号	版厚 (mm)	鉄筋	短辺方向			長辺方向			ファブデッキ	
			端部 a	端部 b	中央部	端部 a	端部 b	中央部		
SI	180+0	ファブ鉄筋	上下 D13@150			上下 D10@200			H-140-D13 × D10 ウェブ筋 Ø7	
		補強筋	上端筋	—	—	—	—	—		—
			下端筋	—	—	—	—	—		—

# FABB-DECK

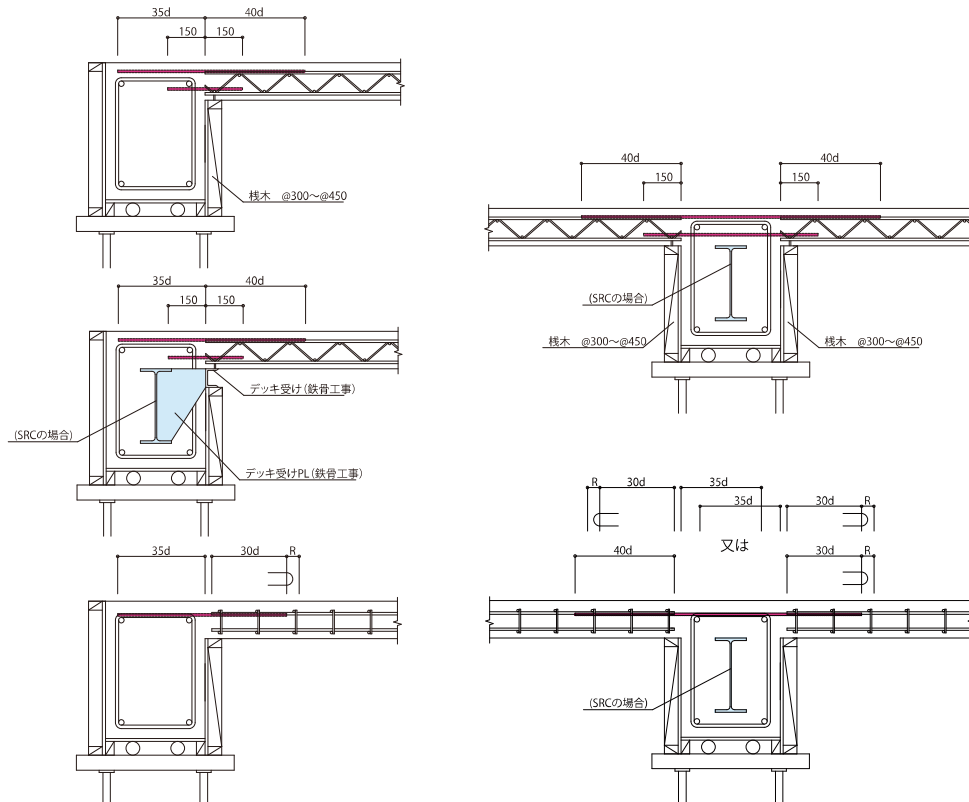
ファブデッキ

## ファブデッキ標準納り図 (二方向)

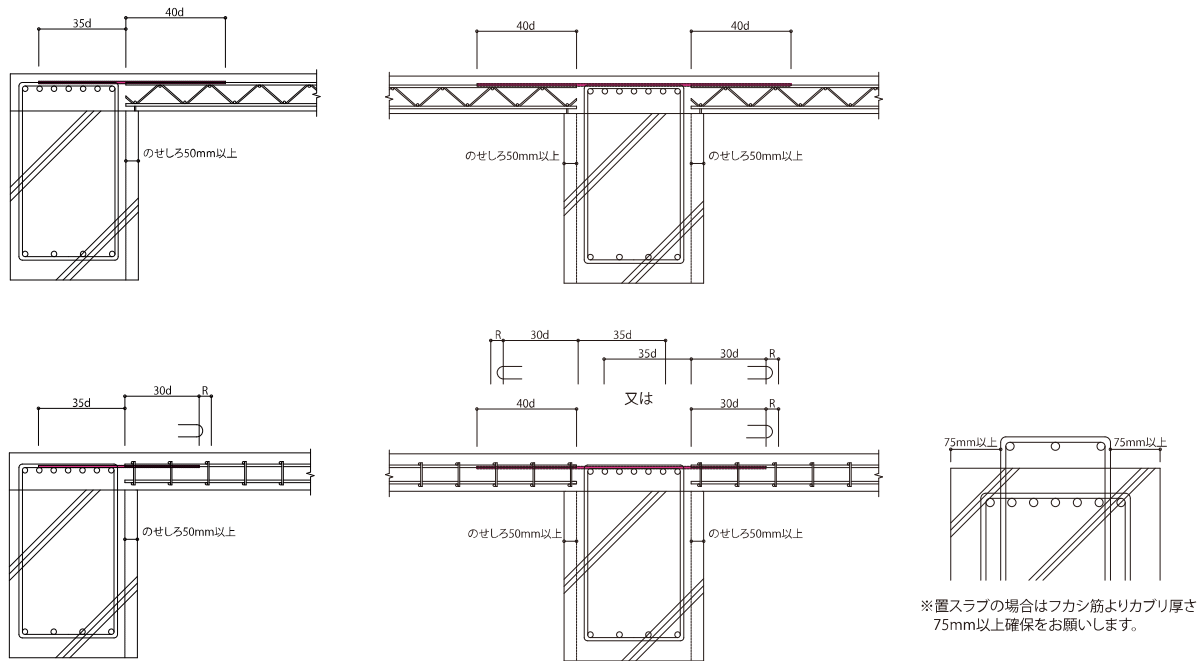
### S造



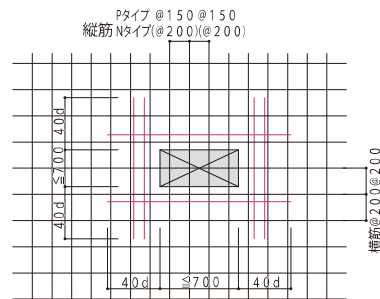
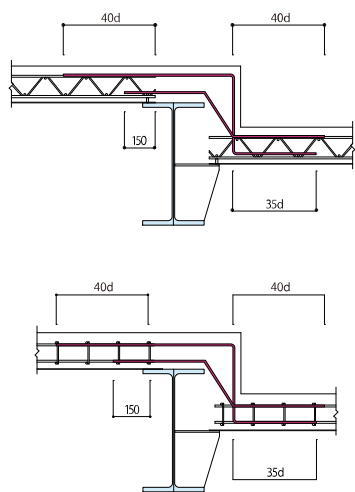
### RC・SRC造



# PCa・PC・置スラブ造



# スラブ段差・開口補強



- ・開口部に対する補強筋は切断するフープ鉄筋と等量以上の補強筋とする。
- ・開口補強筋を用いて設けることができる開口の大きさは原則700mm角以内とする。
- ・前項より大きい開口を設ける場合は設計者と協議を行う。

・段差配筋納まりについては設計者と協議を行う。

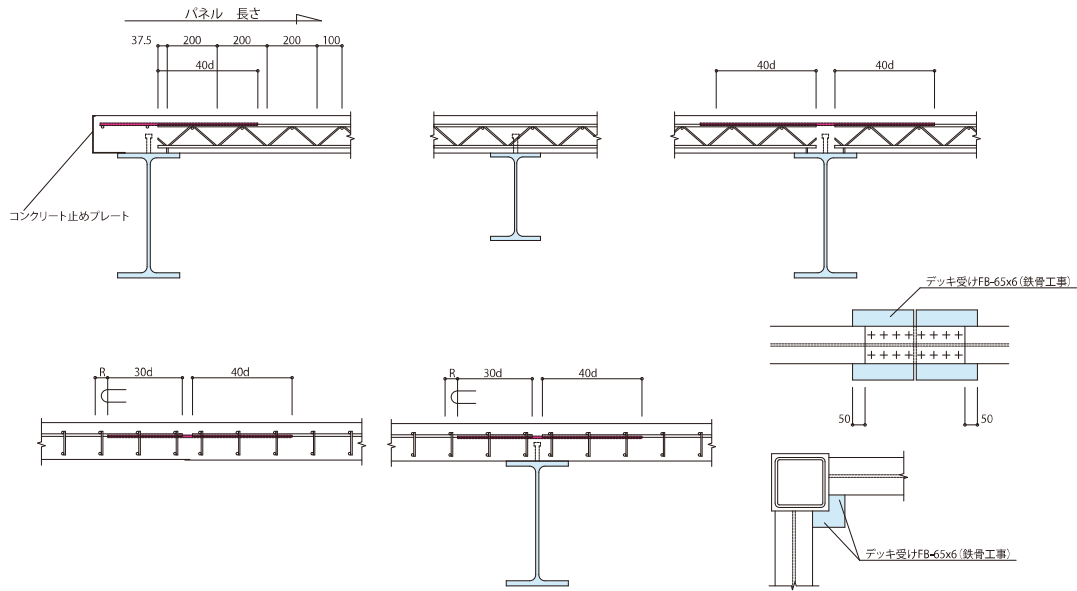


# FABB-DECK

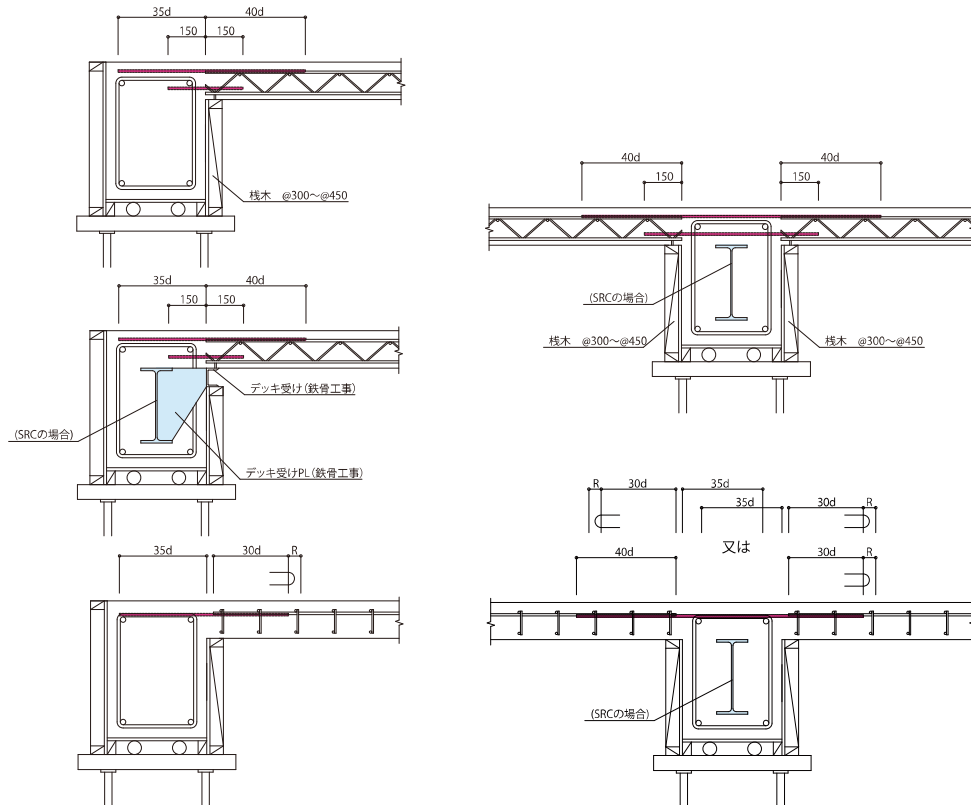
ファブデッキ

## ファブデッキ標準納り図 (一方向)

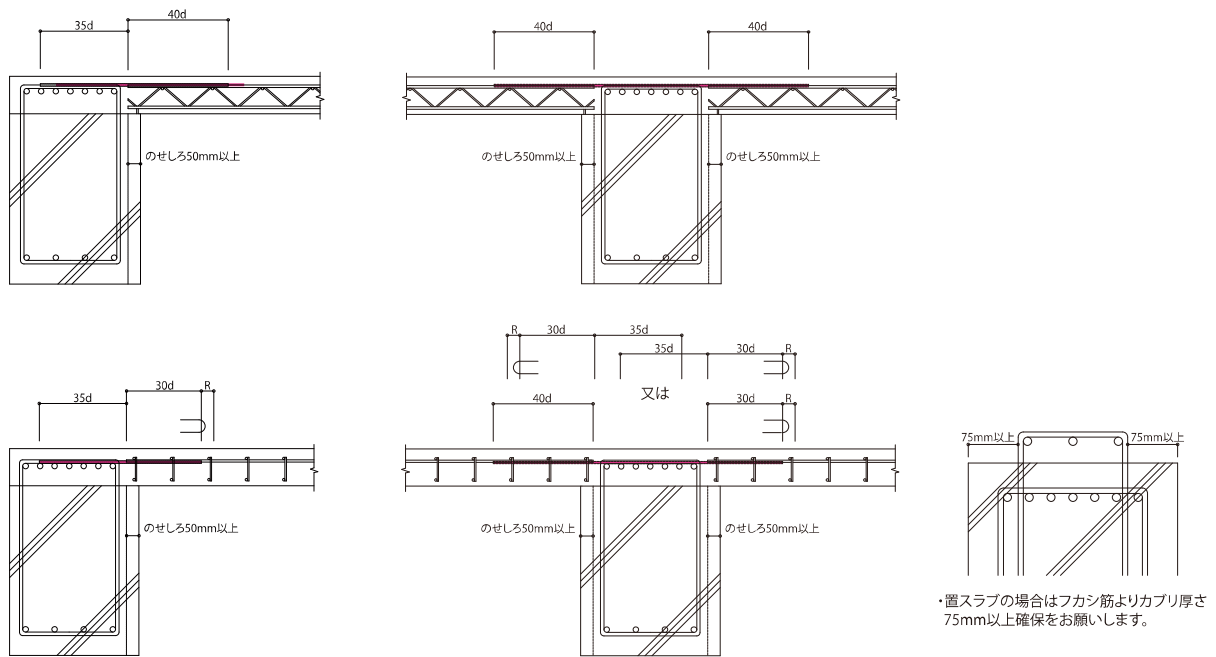
### S造



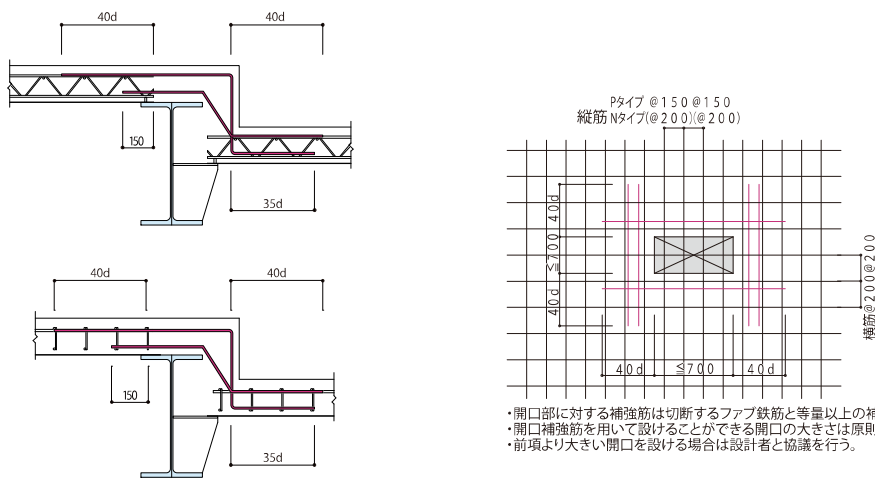
### RC・SRC造



# PCa・PC・置スラブ造



# スラブ段差・開口補強



・段差配筋納まりについては設計者と協議を行う。

## 施工順序

START

自動製造装置



製品完成



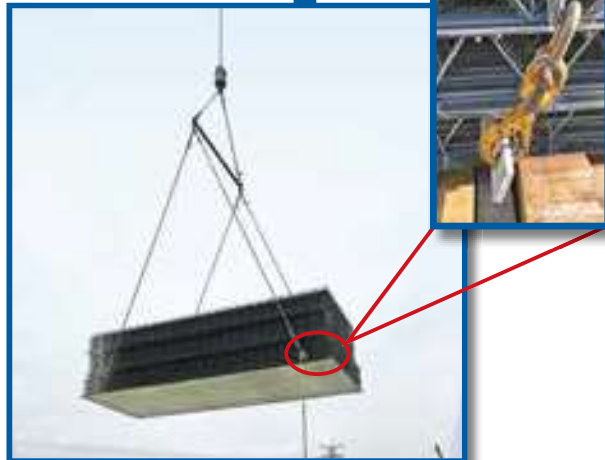
継手筋仕込



出荷・搬入



荷上



仮置



ユニット荷上げ





## 敷込み



## 継手筋配筋



## コンクリート打設



## ファブデッキ裏面仕上がり



## 工程フロー

### ① 工程、作業手順打ち合わせ

### ② ファブパネル割付施工図作成

▶ ファブデッキ工法設計規準による

### ③ 搬入計画およびパネル製造

▶ 製品検査

▶ パネル積荷順および日程の調整

### ④ ファブパネル及び継手筋の搬入

▶ 建物内直接搬入または仮置後、梁上に揚重  
(ユニット工法、地組ヤードにてユニット組立)

### ⑤ パネル敷込み

▶ 割付図に従って敷込み

▶ パネルの加工(柱回り、スプライスプレート部)

▶ 定着継手筋、およびスペーサー(フラットバー)セット

### ⑥ コンクリート流れ止め(別途)

### ⑦ ダメ回り、補修、点検

### ⑧ スタッド打ち(別途)

### ⑨ 設備関係配管および

インサートの取付(別途)

### ⑩ 開口部等の補強(別途)

### ⑪ 検査・手直し

### ⑫ 配筋・型枠工事完了

### ⑬ コンクリート打設(別途)

※お願い：コンクリートのノロ(汁)が多少でするので、コンクリート打設時に水洗い(ジェットの噴射等)をご検討下さい。  
※スペーサー溶接位置等に多少の錆が発生することがあります。  
※スタッド打ちは定着継手筋施工後をお願いします。



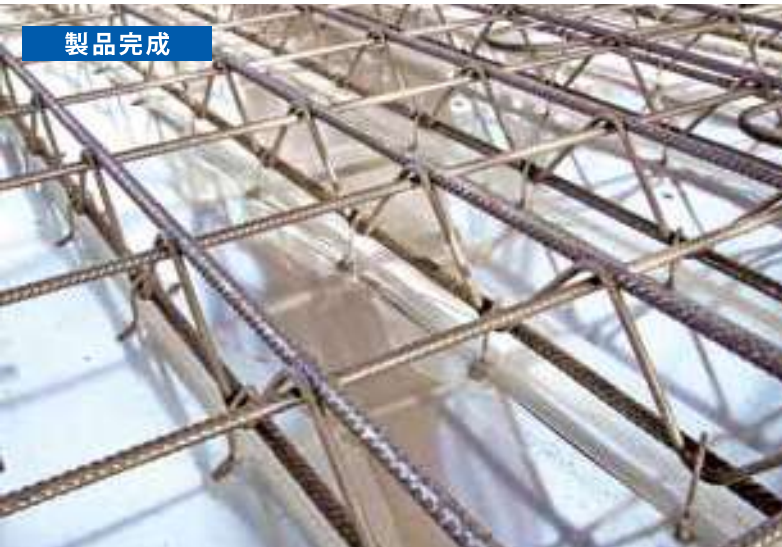
# FABB-DECK

ファブデッキ

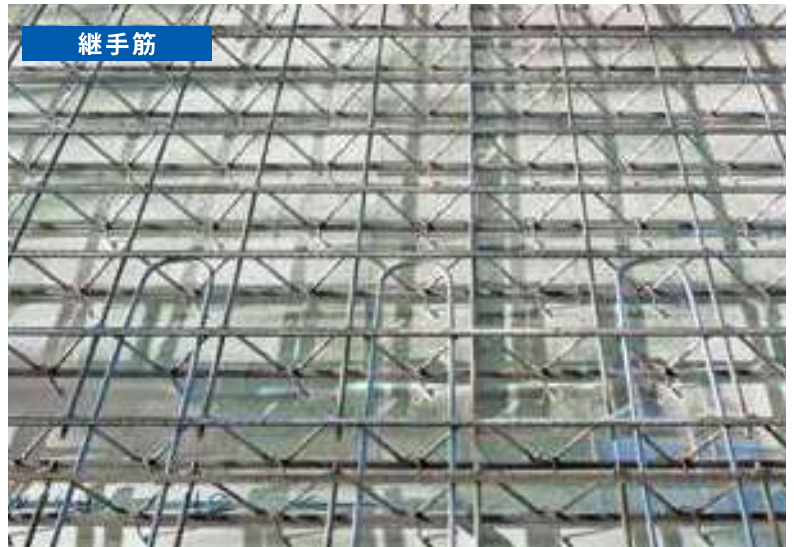
敷込み①



製品完成



継手筋



地組



地組荷上げ



開口補強①



開口補強②

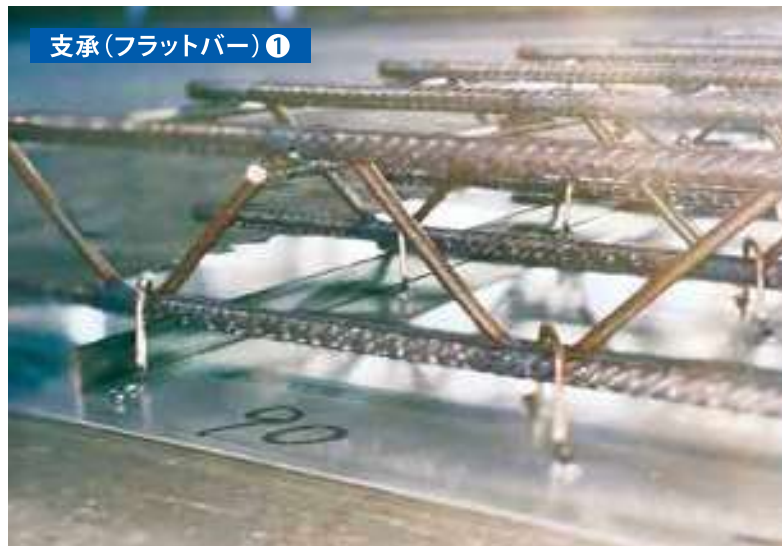




敷込み②



支承(フラットバー)①



支承(フラットバー)②



施工・仕上げ①



施工・仕上げ②



ファブデッキ裏面仕上がり①



ファブデッキ裏面仕上がり②



ファブデッキ裏面仕上がり③





### 一方向床版評定書

本工法は、伊藤忠丸紅住商テクノスチール株式会社による一方向トラス構成の組立鉄筋に、自動溶接された上端格子状一重配筋を構成するファブ鉄筋と亜鉛メッキ鋼板の型枠からなる配筋・型枠一体製造施工工法(以下、ファブデッキ工法という)の設計、製造および施工に関する一般評定である。

タイプ (単位)	縦筋@150タイプ (P型)	縦筋@200タイプ (N型)
縦筋間隔 Pw(mm)	150	200
横筋間隔 PL(mm)	200	200
トラス高さ H (mm)	80、95、110、125、140、155	90、100、110、120、130、140、150、160、170、180、190、200
長さ L (mm)	最大10,000	最大10,600
幅 W (mm)	最大2,250	最大2,000

B C J 評定-RC0279-06

### 評定書 (工法等)

伊藤忠丸紅住商テクノスチール株式会社  
代表取締役 社長 中野 次郎 様

一般財団法人 日本建築センター  
理事長 橋本 公博

令和2年1月15日付けで、評定申し込みのあった下記の件について、当財団コンクリート構造評定委員会(委員長:林静雄)において慎重審議の結果、平成30年3月14日付け評定書(評定番号 B C J 評定-RC0279-04)のとおりに、本件は、申し込みの範囲において、当委員会が定めた基準に照らし、妥当なものであると評定します。

なお、本評定書の有効期間は、本評定日より令和5年3月20日までとします。

令和2年1月15日

記

- 1 件名 ファブデッキ工法(一方向床版)
- 2 評定内容 上下2本の主筋をウェブ筋と溶接した一方向ラチトラスを上端配筋を有したファブ鉄筋を主体とする、コンクリート床スラブ工法の設計・製造・施工に関する一般評定
- 3 評定区分 軽微な変更
- 4 変更の内容 1) 製造工場名の変更(北越興業株式会社→北越メタル株式会社露出工場)  
2) 組織名の変更

上記項目以外は評定書(B C J 評定-RC0279-04)及びB C J 評定-RC0279-05)のとおりに

- 5 備考  
本評定は、設計・施工・品質管理等が適切に行われることを前提に、提出された資料に基づいて行ったものであり、個々の工事等の実施過程及び実施結果の適切性は評定の範囲に含まれていない。また、本評定は申込者による自主管理方法について行われたものであり、受入れに際しては、工事管(監)理者の判断による受入検査が行われることを前提としている。

一般財団法人 日本建築センター  
The Building Center of Japan  
1 / 1

### 二方向床版評定書

本工法は、伊藤忠丸紅住商テクノスチール株式会社による一方向トラス構成の組立鉄筋に自動溶接された格子状二重配筋を構成するファブ鉄筋と亜鉛メッキ鋼板の型枠からなる配筋・型枠一体製造施工工法(以下、ファブデッキ工法という)の設計、製造および施工に関する一般評定である。

タイプ (単位)	縦筋@150タイプ (P型)	縦筋@200タイプ (N型)
縦筋間隔 Pw(mm)	150	200
横筋間隔 PL(mm)	200	200
トラス高さ H (mm)	80、95、110、125、140、155	90、100、110、120、130、140、150、160、170、180、190、200
長さ L (mm)	最大10,000	最大10,600
幅 W (mm)	最大2,250	最大2,000

B C J 評定-RC0280-06

### 評定書 (工法等)

伊藤忠丸紅住商テクノスチール株式会社  
代表取締役 社長 中野 次郎 様

一般財団法人 日本建築センター  
理事長 橋本 公博

令和2年1月15日付けで、評定申し込みのあった下記の件について、当財団コンクリート構造評定委員会(委員長:林静雄)において慎重審議の結果、平成30年3月14日付け評定書(評定番号 B C J 評定-RC0280-04)のとおりに、本件は、申し込みの範囲において、当委員会が定めた基準に照らし、妥当なものであると評定します。

なお、本評定書の有効期間は、本評定日より令和5年3月20日までとします。

令和2年1月15日

記

- 1 件名 ファブデッキ工法(二方向床版)
- 2 評定内容 上下2本の主筋をウェブ筋と溶接した一方向ラチトラスを有する格子状二重配筋を構成するファブ鉄筋を主体とする、コンクリート床スラブ工法の設計・製造・施工に関する一般評定
- 3 評定区分 軽微な変更
- 4 変更の内容 1) 製造工場名の変更(北越興業株式会社→北越メタル株式会社露出工場)  
2) 組織名の変更

上記項目以外は評定書(B C J 評定-RC0280-04)及びB C J 評定-RC0280-05)のとおりに

- 5 備考  
本評定は、設計・施工・品質管理等が適切に行われることを前提に、提出された資料に基づいて行ったものであり、個々の工事等の実施過程及び実施結果の適切性は評定の範囲に含まれていない。また、本評定は申込者による自主管理方法について行われたものであり、受入れに際しては、工事管(監)理者の判断による受入検査が行われることを前提としている。

一般財団法人 日本建築センター  
The Building Center of Japan  
1 / 1

## 早見表 P型 (縦筋@150) 上端筋×下端筋/D10×D10/D13×D13 (施工時の使用限界スパン)

D-10 5φ H-80	スラブ厚さ (mm)	120	125	130	135	140	145	150	
	施工時荷重 (N/m <sup>2</sup> )	4,620	4,740	4,860	4,980	5,100	5,220	5,340	
	施工スパン (mm)	単純梁用法	2,620	2,600	2,580	2,560	2,540	2,520	2,500
		連続梁用法	2,870	2,800	2,730	2,670	2,600	2,540	2,490
中間仮設支持		2,870	2,800	2,730	2,670	2,600	2,540	2,490	
D-10 5φ H-95	スラブ厚さ (mm)	135	140	145	150	155	160	165	
	施工時荷重 (N/m <sup>2</sup> )	4,980	5,100	5,220	5,340	5,460	5,580	5,700	
	施工スパン (mm)	単純梁用法	2,890	2,870	2,850	2,830	2,800	2,770	2,740
		連続梁用法	2,760	2,700	2,640	2,580	2,520	2,470	2,410
中間仮設支持		2,760	2,700	2,640	2,580	2,520	2,470	2,410	
D-10 6φ H-80	スラブ厚さ (mm)	120	125	130	135	140	145	150	
	施工時荷重 (N/m <sup>2</sup> )	4,620	4,740	4,860	4,980	5,100	5,220	5,340	
	施工スパン (mm)	単純梁用法	2,660	2,640	2,620	2,590	2,570	2,550	2,540
		連続梁用法	3,010	2,940	2,860	2,800	2,730	2,670	2,610
中間仮設支持		3,010	2,940	2,860	2,800	2,730	2,670	2,610	
D-10 6φ H-95	スラブ厚さ (mm)	135	140	145	150	155	160	165	
	施工時荷重 (N/m <sup>2</sup> )	4,980	5,100	5,220	5,340	5,460	5,580	5,700	
	施工スパン (mm)	単純梁用法	2,880	2,860	2,840	2,820	2,790	2,760	2,740
		連続梁用法	3,340	3,260	3,190	3,120	3,050	2,980	2,920
中間仮設支持		3,340	3,260	3,190	3,120	3,050	2,980	2,920	
D-10 6φ H-110	スラブ厚さ (mm)	150	155	160	165	170	175	180	
	施工時荷重 (N/m <sup>2</sup> )	5,340	5,460	5,580	5,700	5,820	5,940	6,060	
	施工スパン (mm)	単純梁用法	3,190	3,160	3,130	3,100	3,070	3,040	3,020
		連続梁用法	3,510	3,470	3,430	3,390	3,360	3,330	3,290
中間仮設支持		3,510	3,470	3,430	3,390	3,360	3,330	3,290	
D-10 6φ H-125	スラブ厚さ (mm)	165	170	175	180	185	190	195	
	施工時荷重 (N/m <sup>2</sup> )	5,700	5,820	5,940	6,060	6,180	6,300	6,420	
	施工スパン (mm)	単純梁用法	3,280	3,250	3,220	3,190	3,170	3,140	3,120
		連続梁用法	3,640	3,600	3,570	3,530	3,500	3,460	3,430
中間仮設支持		3,640	3,600	3,570	3,530	3,500	3,460	3,430	
D-10 7φ H-140	スラブ厚さ (mm)	180	185	190	195	200	205	210	
	施工時荷重 (N/m <sup>2</sup> )	6,060	6,180	6,300	6,420	6,540	6,660	6,780	
	施工スパン (mm)	単純梁用法	3,450	3,420	3,390	3,360	3,340	3,310	3,290
		連続梁用法	3,760	3,720	3,690	3,650	3,620	3,580	3,550
中間仮設支持		3,760	3,720	3,690	3,650	3,620	3,580	3,550	
D-10 7φ H-155	スラブ厚さ (mm)	195	200	205	210	215	220	225	
	施工時荷重 (N/m <sup>2</sup> )	6,420	6,540	6,660	6,780	6,900	7,020	7,140	
	施工スパン (mm)	単純梁用法	3,520	3,490	3,460	3,440	3,410	3,390	3,360
		連続梁用法	3,860	3,820	3,790	3,750	3,720	3,690	3,660
中間仮設支持		3,860	3,820	3,790	3,750	3,720	3,690	3,660	
D-13 7φ H-110	スラブ厚さ (mm)	150	155	160	165	170	175	180	
	施工時荷重 (N/m <sup>2</sup> )	5,340	5,460	5,580	5,700	5,820	5,940	6,060	
	施工スパン (mm)	単純梁用法	3,650	3,630	3,600	3,570	3,530	3,500	3,470
		連続梁用法	4,550	4,530	4,500	4,460	4,410	4,370	4,320
中間仮設支持		4,550	4,530	4,500	4,460	4,410	4,370	4,320	
D-13 7φ H-125	スラブ厚さ (mm)	165	170	175	180	185	190	195	
	施工時荷重 (N/m <sup>2</sup> )	5,700	5,820	5,940	6,060	6,180	6,300	6,420	
	施工スパン (mm)	単純梁用法	3,810	3,790	3,770	3,750	3,710	3,680	3,650
		連続梁用法	4,640	4,590	4,540	4,500	4,450	4,410	4,370
中間仮設支持		4,640	4,590	4,540	4,500	4,450	4,410	4,370	
D-13 7φ H-140	スラブ厚さ (mm)	180	185	190	195	200	205	210	
	施工時荷重 (N/m <sup>2</sup> )	6,060	6,180	6,300	6,420	6,540	6,660	6,780	
	施工スパン (mm)	単純梁用法	3,850	3,820	3,800	3,770	3,750	3,720	3,700
		連続梁用法	4,490	4,440	4,400	4,360	4,320	4,280	4,240
中間仮設支持		4,490	4,440	4,400	4,360	4,320	4,280	4,240	
D-13 7φ H-155	スラブ厚さ (mm)	195	200	205	210	215	220	225	
	施工時荷重 (N/m <sup>2</sup> )	6,420	6,540	6,660	6,780	6,900	7,020	7,140	
	施工スパン (mm)	単純梁用法	3,890	3,870	3,850	3,830	3,810	3,780	3,760
		連続梁用法	4,340	4,300	4,260	4,220	4,180	4,150	4,110
中間仮設支持		4,340	4,300	4,260	4,220	4,180	4,150	4,110	

※作業荷重 1500N/m<sup>2</sup>を含む

※上記の数値は実験値を元に二方向・一方向タイプの小さい値を表記しております。最大の使用限界スパンは別途計算式にて決定させていただきます。



# FABB-DECK

ファブデッキ

## 早見表 N型(縦筋@200)上端筋×下端筋 / D13×D13(施工時の使用限界スパン)

H-90 6φ	スラブ厚さ(mm)	130	135	140	145	150	155	160	
	施工時荷重(N/m <sup>2</sup> )	4,860	4,980	5,100	5,220	5,340	5,460	5,580	
	施工スパン(mm)	単純梁用法	2,810	2,790	2,770	2,750	2,730	2,700	2,670
		連続梁用法	3,650	3,570	3,480	3,400	3,330	3,250	3,180
中間仮設支持		3,650	3,570	3,480	3,400	3,330	3,250	3,180	

H-100 6φ	スラブ厚さ(mm)	140	145	150	155	160	165	170	
	施工時荷重(N/m <sup>2</sup> )	5,100	5,220	5,340	5,460	5,580	5,700	5,820	
	施工スパン(mm)	単純梁用法	3,050	3,030	3,010	2,980	2,950	2,920	2,890
		連続梁用法	3,580	3,490	3,420	3,340	3,270	3,200	3,130
中間仮設支持		3,580	3,490	3,420	3,340	3,270	3,200	3,130	

H-110 6φ	スラブ厚さ(mm)	150	155	160	165	170	175	180	
	施工時荷重(N/m <sup>2</sup> )	5,340	5,460	5,580	5,700	5,820	5,940	6,060	
	施工スパン(mm)	単純梁用法	3,130	3,100	3,070	3,040	3,010	2,990	2,960
		連続梁用法	3,480	3,400	3,330	3,260	3,190	3,120	3,060
中間仮設支持		3,480	3,400	3,330	3,260	3,190	3,120	3,060	

H-120 6φ	スラブ厚さ(mm)	160	165	170	175	180	185	190	
	施工時荷重(N/m <sup>2</sup> )	5,580	5,700	5,820	5,940	6,060	6,180	6,300	
	施工スパン(mm)	単純梁用法	3,190	3,160	3,130	3,100	3,070	3,050	3,020
		連続梁用法	3,270	3,200	3,130	3,070	3,010	2,950	2,900
中間仮設支持		3,270	3,200	3,130	3,070	3,010	2,950	2,900	

H-130 6φ	スラブ厚さ(mm)	170	175	180	185	190	195	200	
	施工時荷重(N/m <sup>2</sup> )	5,820	5,940	6,060	6,180	6,300	6,420	6,540	
	施工スパン(mm)	単純梁用法	3,240	3,210	3,190	3,160	3,130	3,110	3,080
		連続梁用法	3,080	3,020	2,960	2,900	2,840	2,790	2,740
中間仮設支持		3,080	3,020	2,960	2,900	2,840	2,790	2,740	

H-140 6φ	スラブ厚さ(mm)	180	185	190	195	200	205	210	
	施工時荷重(N/m <sup>2</sup> )	6,060	6,180	6,300	6,420	6,540	6,660	6,780	
	施工スパン(mm)	単純梁用法	3,180	3,150	3,120	3,090	3,060	3,030	3,010
		連続梁用法	2,880	2,820	2,770	2,720	2,670	2,620	2,570
中間仮設支持		2,880	2,820	2,770	2,720	2,670	2,620	2,570	

H-90 7φ	スラブ厚さ(mm)	130	135	140	145	150	155	160	
	施工時荷重(N/m <sup>2</sup> )	4,860	4,980	5,100	5,220	5,340	5,460	5,580	
	施工スパン(mm)	単純梁用法	2,940	2,920	2,900	2,870	2,850	2,820	2,800
		連続梁用法	3,860	3,830	3,810	3,790	3,770	3,750	3,730
中間仮設支持		3,860	3,830	3,810	3,790	3,770	3,750	3,730	

H-100 7φ	スラブ厚さ(mm)	140	145	150	155	160	165	170	
	施工時荷重(N/m <sup>2</sup> )	5,100	5,220	5,340	5,460	5,580	5,700	5,820	
	施工スパン(mm)	単純梁用法	3,090	3,060	3,040	3,010	2,980	2,950	2,930
		連続梁用法	4,000	3,980	3,950	3,930	3,910	3,890	3,870
中間仮設支持		4,000	3,980	3,950	3,930	3,910	3,890	3,870	

H-110 7φ	スラブ厚さ(mm)	150	155	160	165	170	175	180	
	施工時荷重(N/m <sup>2</sup> )	5,340	5,460	5,580	5,700	5,820	5,940	6,060	
	施工スパン(mm)	単純梁用法	3,170	3,140	3,110	3,080	3,050	3,020	3,000
		連続梁用法	4,080	4,060	4,030	4,010	3,990	3,970	3,950
中間仮設支持		4,080	4,060	4,030	4,010	3,990	3,970	3,950	

※作業荷重 1500N/m<sup>2</sup>を含む

※上記の数値は実験値を元に二方向・一方方向タイプの小さい値を表記しております。最大の使用限界スパンは別途計算式にて決定させていただきます。

H-120 7φ	スラブ厚さ (mm)	160	165	170	175	180	185	190	
	施工時荷重 (N/m <sup>2</sup> )	5,580	5,700	5,820	5,940	6,060	6,180	6,300	
	施工スパン (mm)	単純梁用法	3,230	3,200	3,170	3,140	3,120	3,090	3,060
		連続梁用法	3,920	3,880	3,840	3,800	3,760	3,730	3,690
中間仮設支持		3,920	3,880	3,840	3,800	3,760	3,730	3,690	

H-130 7φ	スラブ厚さ (mm)	170	175	180	185	190	195	200	
	施工時荷重 (N/m <sup>2</sup> )	5,820	5,940	6,060	6,180	6,300	6,420	6,540	
	施工スパン (mm)	単純梁用法	3,330	3,300	3,270	3,240	3,210	3,190	3,160
		連続梁用法	4,090	4,050	4,010	3,970	3,940	3,900	3,860
中間仮設支持		4,090	4,050	4,010	3,970	3,940	3,900	3,860	

H-140 7φ	スラブ厚さ (mm)	180	185	190	195	200	205	210	
	施工時荷重 (N/m <sup>2</sup> )	6,060	6,180	6,300	6,420	6,540	6,660	6,780	
	施工スパン (mm)	単純梁用法	3,410	3,380	3,350	3,330	3,300	3,270	3,250
		連続梁用法	4,090	4,050	4,010	3,980	3,940	3,900	3,870
中間仮設支持		4,090	4,050	4,010	3,980	3,940	3,900	3,870	

H-150 7φ	スラブ厚さ (mm)	190	195	200	205	210	215	220	
	施工時荷重 (N/m <sup>2</sup> )	6,300	6,420	6,540	6,660	6,780	6,900	7,020	
	施工スパン (mm)	単純梁用法	3,460	3,430	3,400	3,380	3,350	3,330	3,300
		連続梁用法	3,900	3,870	3,830	3,790	3,760	3,730	3,700
中間仮設支持		3,900	3,870	3,830	3,790	3,760	3,730	3,700	

H-160 7φ	スラブ厚さ (mm)	200	205	210	215	220	225	230	
	施工時荷重 (N/m <sup>2</sup> )	6,540	6,660	6,780	6,900	7,020	7,140	7,260	
	施工スパン (mm)	単純梁用法	3,510	3,480	3,450	3,430	3,400	3,380	3,350
		連続梁用法	3,720	3,680	3,650	3,620	3,590	3,560	3,530
中間仮設支持		3,720	3,680	3,650	3,620	3,590	3,560	3,530	

H-170 7φ	スラブ厚さ (mm)	210	215	220	225	230	235	240	
	施工時荷重 (N/m <sup>2</sup> )	6,780	6,900	7,020	7,140	7,260	7,380	7,500	
	施工スパン (mm)	単純梁用法	3,530	3,500	3,480	3,450	3,430	3,410	3,380
		連続梁用法	3,640	3,610	3,580	3,550	3,520	3,470	3,410
中間仮設支持		3,640	3,610	3,580	3,550	3,520	3,470	3,410	

H-180 7φ	スラブ厚さ (mm)	220	225	230	235	240	245	250	
	施工時荷重 (N/m <sup>2</sup> )	7,020	7,140	7,260	7,380	7,500	7,620	7,740	
	施工スパン (mm)	単純梁用法	3,540	3,520	3,490	3,470	3,450	3,420	3,400
		連続梁用法	3,510	3,450	3,390	3,340	3,290	3,230	3,180
中間仮設支持		3,510	3,450	3,390	3,340	3,290	3,230	3,180	

H-190 7φ	スラブ厚さ (mm)	230	235	240	245	250	255	260	
	施工時荷重 (N/m <sup>2</sup> )	7,260	7,380	7,500	7,620	7,740	7,860	7,980	
	施工スパン (mm)	単純梁用法	3,420	3,400	3,370	3,340	3,320	3,290	3,270
		連続梁用法	3,200	3,140	3,090	3,040	3,000	2,950	2,910
中間仮設支持		3,200	3,140	3,090	3,040	3,000	2,950	2,910	

H-200 7φ	スラブ厚さ (mm)	240	245	250	255	260	265	270	
	施工時荷重 (N/m <sup>2</sup> )	7,500	7,620	7,740	7,860	7,980	8,100	8,220	
	施工スパン (mm)	単純梁用法	3,290	3,260	3,230	3,210	3,190	3,160	3,140
		連続梁用法	2,900	2,860	2,810	2,770	2,730	2,690	2,650
中間仮設支持		2,900	2,860	2,810	2,770	2,730	2,690	2,650	

※作業荷重 1500N/m<sup>2</sup>を含む

※上記の数値は実験値を元に二方向・一方方向タイプの小さい値を表記しております。最大の使用限界スパンは別途計算式にて決定させていただきます。



# FABB-DECK

ファブデッキ

## 早見表 N型(縦筋@200)上端筋×下端筋/D13×D10(施工時の使用限界スパン)

H-90 6φ	スラブ厚さ (mm)	130	135	140	145	150	155	160	
	施工時荷重 (N/m <sup>2</sup> )	4,860	4,980	5,100	5,220	5,340	5,460	5,580	
	施工スパン (mm)	単純梁用法	2,620	2,600	2,580	2,560	2,540	2,520	2,490
		連続梁用法	3,230	3,150	3,070	3,000	2,940	2,870	2,810
中間仮設支持		3,230	3,150	3,070	3,000	2,940	2,870	2,810	

H-100 6φ	スラブ厚さ (mm)	140	145	150	155	160	165	170	
	施工時荷重 (N/m <sup>2</sup> )	5,100	5,220	5,340	5,460	5,580	5,700	5,820	
	施工スパン (mm)	単純梁用法	2,710	2,690	2,670	2,640	2,610	2,590	2,560
		連続梁用法	3,550	3,490	3,420	3,340	3,270	3,200	3,130
中間仮設支持		3,550	3,490	3,420	3,340	3,270	3,200	3,130	

H-110 6φ	スラブ厚さ (mm)	150	155	160	165	170	175	180	
	施工時荷重 (N/m <sup>2</sup> )	5,340	5,460	5,580	5,700	5,820	5,940	6,060	
	施工スパン (mm)	単純梁用法	2,840	2,810	2,780	2,760	2,730	2,710	2,680
		連続梁用法	3,270	3,190	3,130	3,060	3,000	2,940	2,880
中間仮設支持		3,270	3,190	3,130	3,060	3,000	2,940	2,880	

H-120 6φ	スラブ厚さ (mm)	160	165	170	175	180	185	190	
	施工時荷重 (N/m <sup>2</sup> )	5,580	5,700	5,820	5,940	6,060	6,180	6,300	
	施工スパン (mm)	単純梁用法	2,930	2,910	2,880	2,850	2,830	2,800	2,780
		連続梁用法	3,300	3,230	3,160	3,100	3,040	2,980	2,920
中間仮設支持		3,300	3,230	3,160	3,100	3,040	2,980	2,920	

H-130 6φ	スラブ厚さ (mm)	170	175	180	185	190	195	200	
	施工時荷重 (N/m <sup>2</sup> )	5,820	5,940	6,060	6,180	6,300	6,420	6,540	
	施工スパン (mm)	単純梁用法	3,040	3,010	2,980	2,960	2,930	2,910	2,880
		連続梁用法	3,020	2,960	2,900	2,850	2,790	2,740	2,690
中間仮設支持		3,020	2,960	2,900	2,850	2,790	2,740	2,690	

H-140 6φ	スラブ厚さ (mm)	180	185	190	195	200	205	210	
	施工時荷重 (N/m <sup>2</sup> )	6,060	6,180	6,300	6,420	6,540	6,660	6,780	
	施工スパン (mm)	単純梁用法	3,110	3,080	3,050	3,020	2,990	2,960	2,940
		連続梁用法	2,750	2,690	2,640	2,590	2,540	2,500	2,450
中間仮設支持		2,750	2,690	2,640	2,590	2,540	2,500	2,450	

H-90 7φ	スラブ厚さ (mm)	130	135	140	145	150	155	160	
	施工時荷重 (N/m <sup>2</sup> )	4,860	4,980	5,100	5,220	5,340	5,460	5,580	
	施工スパン (mm)	単純梁用法	2,690	2,670	2,650	2,630	2,610	2,580	2,560
		連続梁用法	3,330	3,240	3,170	3,100	3,030	2,960	2,900
中間仮設支持		3,330	3,240	3,170	3,100	3,030	2,960	2,900	

H-100 7φ	スラブ厚さ (mm)	140	145	150	155	160	165	170	
	施工時荷重 (N/m <sup>2</sup> )	5,100	5,220	5,340	5,460	5,580	5,700	5,820	
	施工スパン (mm)	単純梁用法	2,850	2,830	2,810	2,780	2,760	2,730	2,700
		連続梁用法	3,760	3,710	3,670	3,630	3,590	3,550	3,520
中間仮設支持		3,760	3,710	3,670	3,630	3,590	3,550	3,520	

H-110 7φ	スラブ厚さ (mm)	150	155	160	165	170	175	180	
	施工時荷重 (N/m <sup>2</sup> )	5,340	5,460	5,580	5,700	5,820	5,940	6,060	
	施工スパン (mm)	単純梁用法	2,940	2,910	2,880	2,850	2,830	2,800	2,780
		連続梁用法	3,810	3,770	3,730	3,690	3,650	3,610	3,580
中間仮設支持		3,810	3,770	3,730	3,690	3,650	3,610	3,580	

※作業荷重 1500N/m<sup>2</sup>を含む

※上記の数値は実験値を元に二方向・一方方向タイプの小さい値を表記しております。最大の使用限界スパンは別途計算式にて決定させていただきます。

H-120 7φ	スラブ厚さ (mm)	160	165	170	175	180	185	190	
	施工時荷重 (N/m <sup>2</sup> )	5,580	5,700	5,820	5,940	6,060	6,180	6,300	
	施工スパン (mm)	単純梁用法	2,990	2,970	2,940	2,910	2,880	2,860	2,840
		連続梁用法	3,860	3,820	3,780	3,750	3,710	3,670	3,640
中間仮設支持		3,860	3,820	3,780	3,750	3,710	3,670	3,640	

H-130 7φ	スラブ厚さ (mm)	170	175	180	185	190	195	200	
	施工時荷重 (N/m <sup>2</sup> )	5,820	5,940	6,060	6,180	6,300	6,420	6,540	
	施工スパン (mm)	単純梁用法	3,090	3,060	3,030	3,010	2,980	2,960	2,930
		連続梁用法	3,650	3,620	3,580	3,540	3,500	3,440	3,380
中間仮設支持		3,650	3,620	3,580	3,540	3,500	3,440	3,380	

H-140 7φ	スラブ厚さ (mm)	180	185	190	195	200	205	210	
	施工時荷重 (N/m <sup>2</sup> )	6,060	6,180	6,300	6,420	6,540	6,660	6,780	
	施工スパン (mm)	単純梁用法	3,170	3,140	3,120	3,090	3,070	3,040	3,020
		連続梁用法	3,610	3,580	3,540	3,510	3,450	3,390	3,330
中間仮設支持		3,610	3,580	3,540	3,510	3,450	3,390	3,330	

H-150 7φ	スラブ厚さ (mm)	190	195	200	205	210	215	220	
	施工時荷重 (N/m <sup>2</sup> )	6,300	6,420	6,540	6,660	6,780	6,900	7,020	
	施工スパン (mm)	単純梁用法	3,200	3,170	3,150	3,120	3,100	3,070	3,050
		連続梁用法	3,700	3,670	3,630	3,600	3,570	3,540	3,510
中間仮設支持		3,700	3,670	3,630	3,600	3,570	3,540	3,510	

H-160 7φ	スラブ厚さ (mm)	200	205	210	215	220	225	230	
	施工時荷重 (N/m <sup>2</sup> )	6,540	6,660	6,780	6,900	7,020	7,140	7,260	
	施工スパン (mm)	単純梁用法	3,220	3,200	3,170	3,150	3,120	3,100	3,080
		連続梁用法	3,780	3,750	3,710	3,680	3,650	3,620	3,590
中間仮設支持		3,780	3,750	3,710	3,680	3,650	3,620	3,590	

H-170 7φ	スラブ厚さ (mm)	210	215	220	225	230	235	240	
	施工時荷重 (N/m <sup>2</sup> )	6,780	6,900	7,020	7,140	7,260	7,380	7,500	
	施工スパン (mm)	単純梁用法	3,190	3,160	3,140	3,120	3,100	3,070	3,050
		連続梁用法	3,640	3,610	3,580	3,550	3,520	3,490	3,430
中間仮設支持		3,640	3,610	3,580	3,550	3,520	3,490	3,430	

H-180 7φ	スラブ厚さ (mm)	220	225	230	235	240	245	250	
	施工時荷重 (N/m <sup>2</sup> )	7,020	7,140	7,260	7,380	7,500	7,620	7,740	
	施工スパン (mm)	単純梁用法	3,230	3,210	3,190	3,170	3,150	3,120	3,100
		連続梁用法	3,490	3,430	3,370	3,320	3,260	3,210	3,160
中間仮設支持		3,490	3,430	3,370	3,320	3,260	3,210	3,160	

H-190 7φ	スラブ厚さ (mm)	230	235	240	245	250	255	260	
	施工時荷重 (N/m <sup>2</sup> )	7,260	7,380	7,500	7,620	7,740	7,860	7,980	
	施工スパン (mm)	単純梁用法	3,270	3,240	3,220	3,200	3,180	3,160	3,140
		連続梁用法	3,170	3,120	3,070	3,020	2,980	2,930	2,890
中間仮設支持		3,170	3,120	3,070	3,020	2,980	2,930	2,890	

H-200 7φ	スラブ厚さ (mm)	240	245	250	255	260	265	270	
	施工時荷重 (N/m <sup>2</sup> )	7,500	7,620	7,740	7,860	7,980	8,100	8,220	
	施工スパン (mm)	単純梁用法	3,260	3,240	3,220	3,200	3,180	3,160	3,140
		連続梁用法	2,860	2,810	2,770	2,730	2,690	2,650	2,610
中間仮設支持		2,860	2,810	2,770	2,730	2,690	2,650	2,610	

※作業荷重 1500N/m<sup>2</sup>を含む

※上記の数値は実験値を元に二方向・一方方向タイプの小さい値を表記しております。最大の使用限界スパンは別途計算式にて決定させていただきます。



# 伊藤忠丸紅住商テクノスチール株式会社

ISO14001 認証取得

伊藤忠丸紅住商テクノスチール ホームページ : <http://www.imsts.co.jp/>

## ■ 本社・支店一覧

		TEL.	FAX.
◎ 東京本社	〒100-0004 東京都千代田区大手町1丁目6番1号 大手町ビル8F	03-6266-8231	03-6266-8253
北海道支社	〒060-0051 札幌市中央区南1条東1丁目 大通りバスセンタービル1号館7F	011-212-2026	011-212-2150
東北支社	〒980-0021 仙台市青葉区中央4-10-3 仙台キャピタルタワー	022-267-1691	022-224-6023
新潟支店	〒950-0087 新潟市中央区東大通1-7-7 IMAⅢビル5F	025-245-4412	025-245-4419
名古屋支社	〒460-0003 名古屋市中区錦2-2-2 名古屋丸紅ビル11F	052-203-6061	052-203-6060
北陸支店	〒930-0004 富山市桜橋通2-25 第一生命ビル4F	076-441-1445	076-442-3340
◎ 関西支社	〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-18 住友中之島ビル4F	06-4803-8518	06-4803-8519
中国支店	〒730-0031 広島市中区紙屋町1-3-2 銀泉広島ビル	082-247-4076	082-247-4093
四国支店	〒760-0017 高松市番町1-6-8 高松興銀ビル8F	087-823-7101	087-823-7108
◎ 九州支社	〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1-2-5 紙与博多ビル3F	092-483-7273	092-483-7283
南九州営業所	〒890-0052 鹿児島市上之園町24-2 第12川北ビルBOIS鹿児島5F	099-253-6007	099-285-2226

※ファブデッキ床版についての詳細は、◎印の事務所にお問い合わせください。

## ■ 協力工場／製造タイプ

北越メタル(株)雲出工場	〒940-2045 新潟県長岡市西陵町221-31 [P型(D10/H=80~125) N型(D10・D13/H=90~200)]
(株)近藤本社 長岡工場	〒410-2211 静岡県伊豆の国市長岡字上耕地山1407-23 [P型(D10/H=80~155、D13/H=110~155)]
大井川工場	〒421-0421 静岡県牧之原市細江6218-2 [P型(D10/H=95~155、D13/H=110~155)]
井河原産業(株)佐用工場	〒679-5141 兵庫県佐用郡佐用町広山1番地 [P型(D10/H=80~125)]
FDテクノ九州(株)	〒822-0144 福岡県宮若市稲光800 [P型(D10/H=80~125)]